

2025年3月期 第2四半期決算 IR説明会資料

2024年11月

株式会社 極 洋

(東証プライム市場 証券コード 1301)

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

※2025年3月期 第1四半期より報告セグメントの変更を行っており、前年同期実績はセグメント変更後に組み替えて記載しております。

1.上半期 総括	P2～6
2.上半期 実績	P7～11
3.セグメントの状況	P12～18
4.下半期の施策	P19～23
5.設備投資実績・計画	P24～26

ご参考資料	P27～34
-------	--------

1.上半期 総括

売上高**1,405億円**

前年同期比
+144億円
+11.5%

営業利益**54億円**

前年同期比
+14億円
+36.7%

経常利益**53億円**

前年同期比
+11億円
+28.3%

**親会社株主に帰属する
中間純利益****27億円**

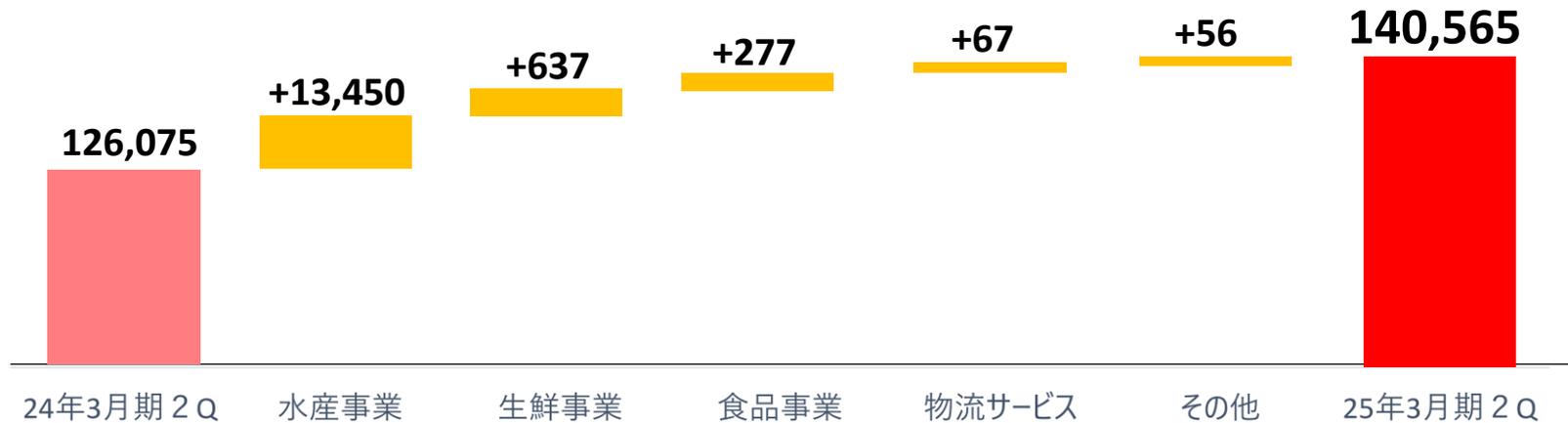
前年同期比
+2億円
+10.5%

➤ ポイント

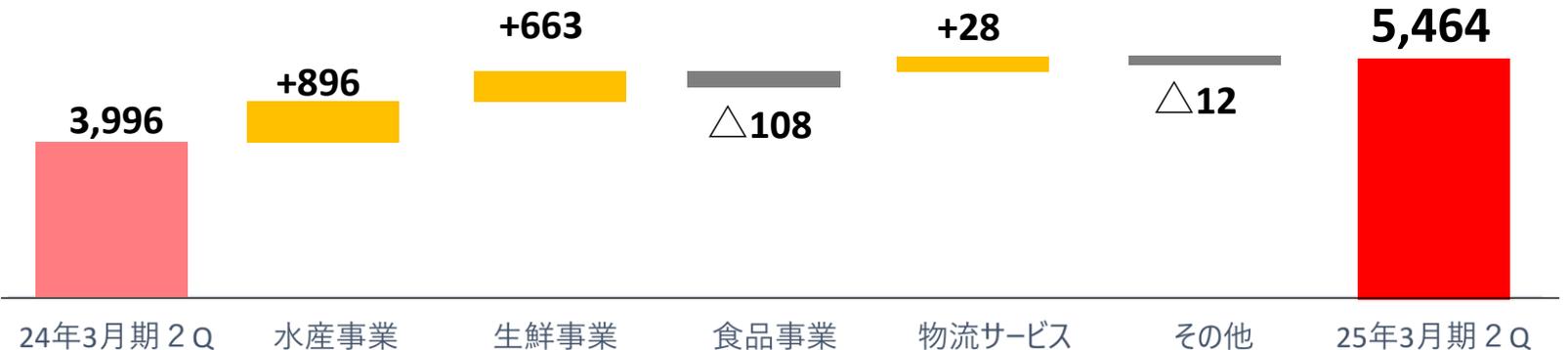
- ・売上高、営業利益は第2四半期として過去最高値。
- ・水産事業セグメントの国内販売、生鮮事業セグメント内の鯉鮪事業の好調が増収増益に寄与。

売上高・営業利益のセグメント別増減分析

売上高



営業利益



成長を加速 “Gear up”



強いキョクヨーへ

視座 **グローバル化**

事業基盤の拡充

海外事業の拡大

中期経営計画目標 **2027年3月期 海外売上高比率 15%以上（600億円）**

（ご参考）

25年3月期 上半期実績 8.8%（123億円）

24年3月期 上半期実績 9.9%（124億円）

24年3月期 通期実績 8.3%（218億円）

➤ 海外事業を推進する部署を新設【24年4月】

グループ全体の海外事業を統括する部署として「海外事業本部」を、海外M&Aを推進する専門部署として「海外事業戦略部」を新設。

また、今年度より海外事業の収支管理のため、従来、別セグメントに一部含めていた海外売上高を、水産事業セグメントに集約した、セグメントの変更を行っております

➤ オランダ企業「Northseafood Holland B.V.」を買収【24年6月】

当社グループ初の欧州生産拠点。ヨーロッパでの食品事業の強化。※連結子会社 2QはBSのみ連結

➤ ホタテの加工・輸出専門「太平洋スキャロップ株式会社」設立【24年7月】

海外で人気が高まっている日本産ホタテについて、原料調達から、加工まで国内で完結させる体制を構築。24年11月に輸出開始。 ※連結子会社



Northseafood Holland B.V.

視座 4つの事業

事業基盤の拡充

食品事業の拡大

- **市販冷凍食品を生産する「極洋食品(株)倉吉工場」新設を発表【24年5月】**
市販用冷凍食品の生産能力増強及び全国的な物流の効率性を向上。
自社工場を中心とした生産販売体制の強化。
工場の改修中、25年4月に稼働予定

事業基盤の拡充

高収益を確保できる付加価値性の高い商品づくり

- **2024年秋の新商品発表【24年7月】**
水産事業においても、水産相場に影響されにくい加工度の高い市販商品ラインナップを強化。



銀座スイスが監修した「洋食屋さんの大きなエビフライ」



無限サーモン 市販用

ステークホルダーとのパートナーシップの強化

消費者との信頼関係

目的：企業ブランドの強化

- **新企業CMの放映開始【24年4月】**
- **エリア限定で15秒版の企業CMを放映【24年9月】**



新企業CM

視座 人財・組織

ステークホルダーとのパートナーシップの強化

従業員が働きやすい職場環境

- **組合員平均12,000円のベースアップを実施【24年4月】**
主に若手社員の待遇改善を図り、初任給は271,000円から287,000円へ5.9%の引き上げ

2.上半期 実績

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2Q		前年同期比		2025年 3月期 通期予想	通期 予想比 (達成率)
	2024年 3月期	2025年 3月期	増減額	増減比率		
売上高	126,075	140,565	14,489	11.5%	300,000	46.9%
営業利益	3,996	5,464	1,468	36.7%	10,000	54.6%
経常利益	4,142	5,315	1,173	28.3%	10,000	53.2%
親会社株主に帰属 する中間純利益	2,451	2,709	258	10.5%	7,000	38.7%

■売上高、営業利益は2Qとして過去最高値を更新。

➤ 前年同期比

- ・売上高、営業利益、経常利益、中間純利益とも上回った。
- ・主要因は、水産事業セグメント、生鮮事業セグメント内の鯉鮪事業の改善。

➤ 通期予想比（2024年5月10日公表）

- ・上半期で営業利益、経常利益とも5割達成。
- ・水産物の需要が高まる年末商戦を残し、売上高は4割達成。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2023年 9月末	2024年 9月末	前年同期比		2023年 9月末	2024年 9月末	前年同期比
資産の部				負債の部			
流動資産	119,974	131,759	11,784	流動負債	69,757	79,528	9,770
受取手形 及び売掛金	36,246	36,412	166	内、支払手形 および買掛金	11,480	12,304	824
				内、短期借入金 (含むCP)	43,602	50,687	7,085
商品及び製品	56,840	65,356	8,515	固定負債	34,961	32,512	△2,449
仕掛品	4,946	5,445	498	内、長期借入金	30,501	30,275	△225
原材料及び貯蔵品	7,191	7,150	△41	負債合計	104,719	112,040	7,321
その他	14,749	17,395	2,645	純資産の部			
固定資産	35,138	42,013	6,874	株主資本	45,142	53,871	8,729
有形固定資産	21,180	25,342	4,161	その他の 包括利益累計額	5,076	7,468	2,391
無形固定資産	719	1,230	510	非支配株主持分	173	391	217
投資その他の資産	13,237	15,439	2,202	純資産合計	50,393	61,731	11,338
資産合計	155,112	173,772	18,659	負債及び純資産合計	155,112	173,772	18,659

- ・水産物相場が前年同期比で持ち直し、「商品及び製品」が大幅増。
- ・海外企業買収などにより「有形固定資産」が増加。

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

		2Q累計	2Q累計	前年同期比
		2024年3月期	2025年3月期	
営業活動による キャッシュ・フロー	税金等調整前当期純利益	3,553	4,118	565
	減価償却費	1,173	1,216	42
	売上債権の増減 (△は増加)	△2,967	△349	2,618
	棚卸資産の増減 (△は増加)	△5,380	△5,930	△550
	仕入債務の増減 (△は減少)	2,608	2,975	366
	その他	△207	71	278
	小計	△1,220	2,101	3,321
投資活動による キャッシュ・フロー	固定資産の取得	△3,184	△2,461	723
	その他	△11	△2,745	△2,734
	小計	△3,196	△5,206	△2,010
財務活動による キャッシュ・フロー	短期借入金 (含むCP)の増減 (△は減少)	4,449	△66	△4,515
	長期借入れの増減 (△は減少)	770	4,671	3,900
	その他	△417	△1,231	△813
	小計	4,802	3,374	△1,428

- ・「売上債権」の減少などにより、営業CFは増加。
- ・海外企業の買収などにより投資活動CFの「その他」が増加。

2Q累計の推移

	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	前年同期比
自己資本 (百万円)	35,035	42,070	46,027	50,219	61,340	11,121
有利子負債 (百万円)	55,693	56,798	75,748	74,435	81,376	6,941
総資産 (百万円)	115,610	127,429	150,833	155,112	173,772	18,659
現金及び現金同等物の 中間期末残高 (百万円)	5,793	6,790	5,880	7,681	8,917	1,236
自己資本比率	30.3%	33.0%	30.5%	32.4%	35.3%	+2.9ポイント
D/Eレシオ	1.7倍	1.5倍	1.8倍	1.6倍	1.5倍	△0.1ポイント
ROE	4.7%	5.9%	9.5%	5.0%	4.5%	△0.5ポイント
ROA	1.3%	2.8%	4.1%	2.7%	3.2%	+0.5ポイント

ROE：「親会社株主に帰属する中間純利益÷自己資本*」、 ROA：「経常利益÷総資産*」 *当中間期末と前期末の平均値

- ・利益の着実な積上げにより自己資本が増加し、自己資本比率は上昇。
- ・自己資本の大幅な増加により、ROEは減少。
- ・総資産が増加するも、経常利益が大幅に増加し、ROAは上昇。

3.セグメントの状況

セグメントの状況

セグメント別売上高・利益

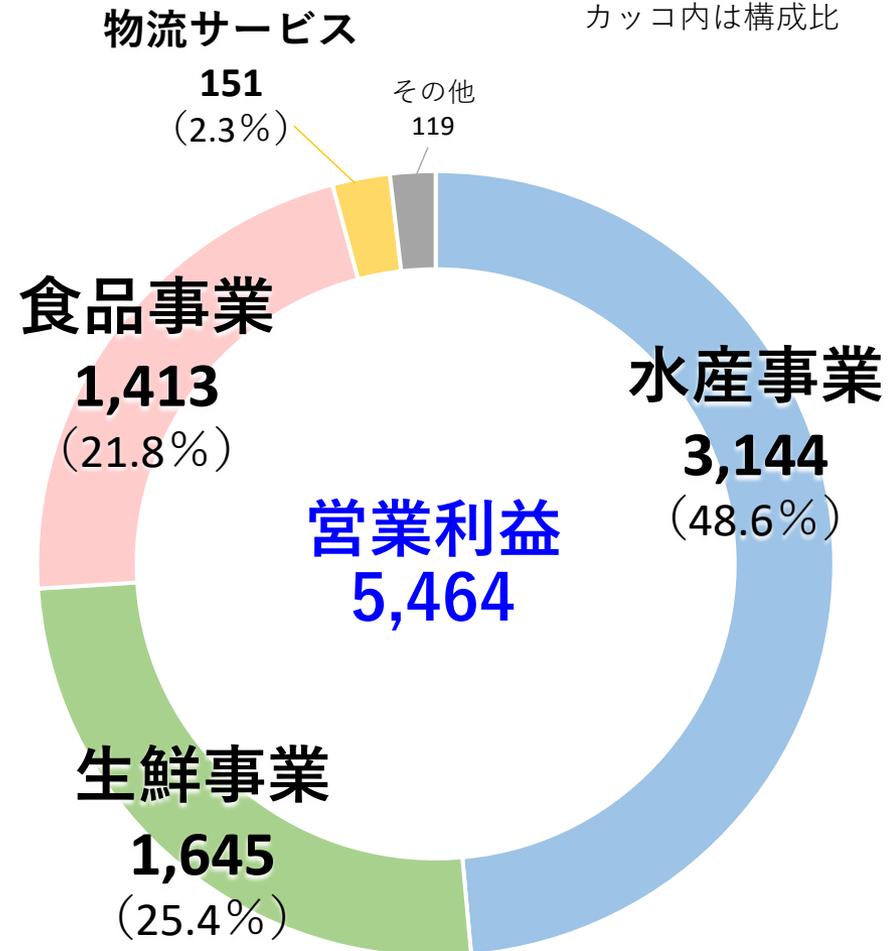
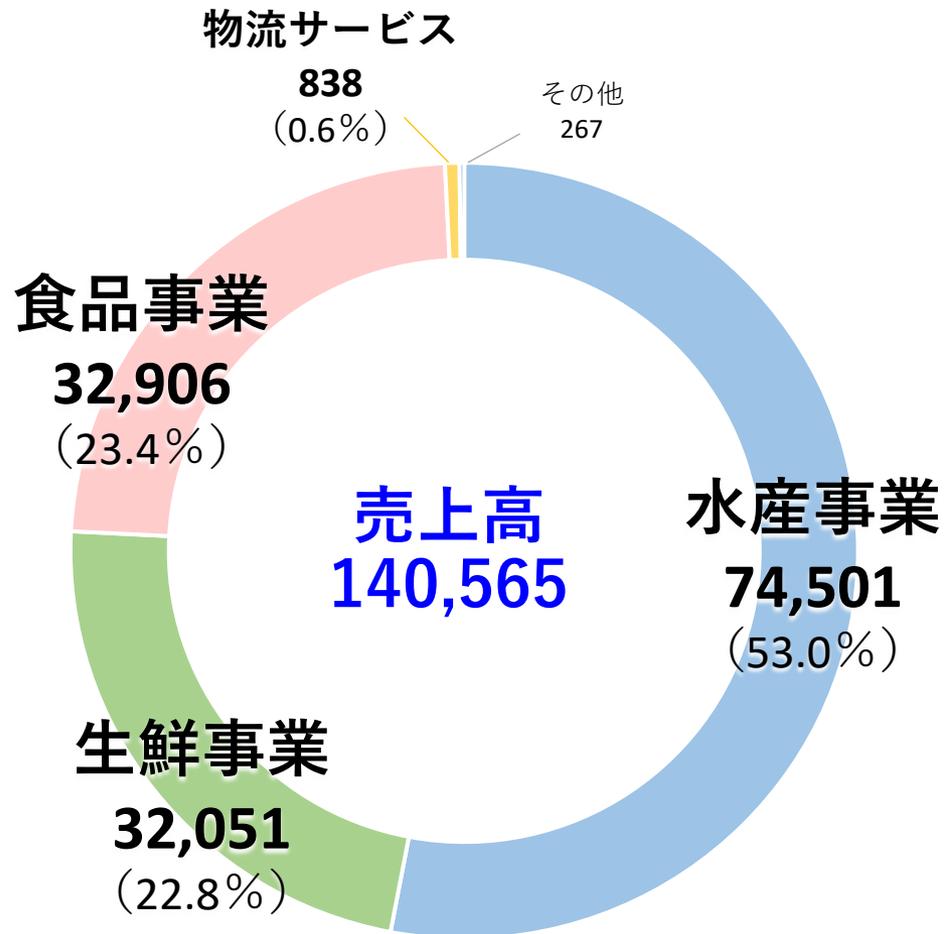
(単位：百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2024年3月期 2Q	2025年3月期 2Q	前年同期比	2024年3月期 2Q	2025年3月期 2Q	前年同期比
水産事業	61,050	74,501	13,450	2,248	3,144	896
生鮮事業	31,414	32,051	637	982	1,645	663
食品事業	32,628	32,906	277	1,522	1,413	△108
物流 サービス	770	838	67	123	151	28
その他	211	267	56	△879	△891	△12
合 計	126,075	140,565	14,489	3,996	5,464	1,468

※管理区分を見直したことに伴い、前年同期実績についても、セグメント変更後に組み替えて記載しております。

セグメントの状況

単位：百万円
カッコ内は構成比



※調整額 △1,010百万円を除く。
調整額を差し引く前のセグメント利益合計は6,475百万円。

水産事業

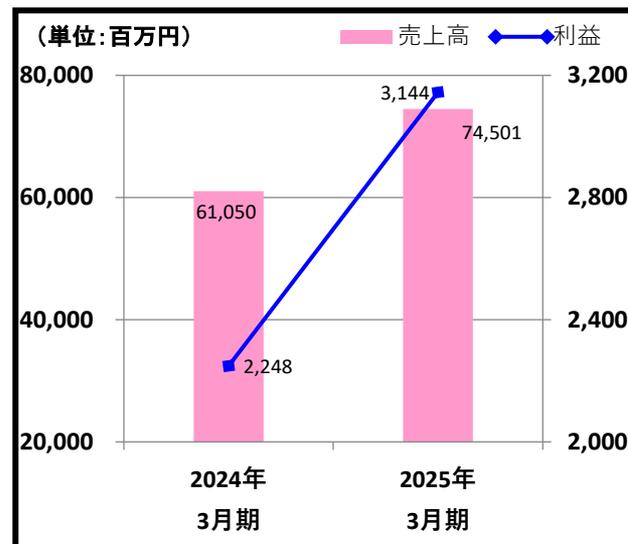
《増収増益》

(国内販売)

- サケ・エビ、魚卵・カニの販売が好調
- 利益は、加工品の伸長、夏までの相場上昇をとらえて大幅改善

(海外事業)

- 輸出は、青物の販売が大幅に伸長したものの、ホタテが減少し、全体では減少
- 海外現地販売は、欧米・中国での過剰在庫が解消され回復



	売上高	利益
国内販売	➡	➡
海外事業	➡	➡

※参考資料P.28に「魚種別売上重量・単価推移」を記載しております。
 ※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。

➤ 生鮮事業

《増収増益》

(鯉鮪販売)

- ・冷凍クロマグロを中心に好調に推移、相場回復

(生食事業)

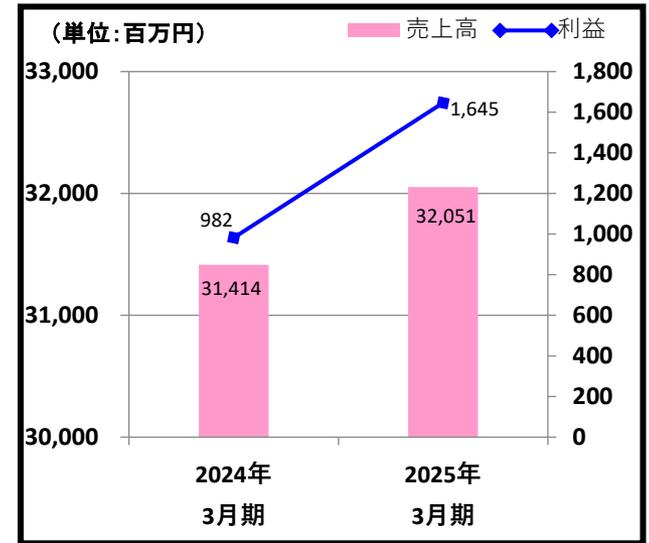
- ・寿司種は、価格改定の影響で販売減少も収益は改善

(海外まき網事業)

- ・売上は水揚げ量増加も、市況下落により減少
- ・収益は燃料費の高騰や修繕費が落ち着き、改善

(養殖事業)

- ・クロマグロ拡販するも、生産コストの上昇が収益を圧迫



	売上高	利益
鯉鮪販売	➡	➡
生食事業 (寿司種中心)	➡	➡
海外まき網事業	➡	➡
養殖事業	➡	➡

※参考資料P.29～30に「クロマグロ養殖事業 売上重量・金額」および「海外まき網事業 水揚げ重量・魚価」を記載しております。
 ※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。

▶ 食品事業

《増収減益》

(業務用冷凍食品)

- 価格改定による消費減退で、水産フライ、切り身の販売が減少

(市販用冷凍食品)

- 煮魚・焼魚、弁当用商材の販売が伸長

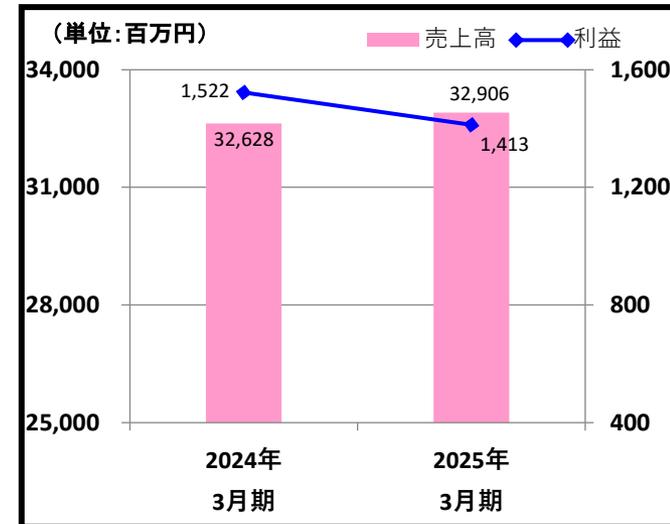
(缶詰)

- サバ缶が改善、ツナ缶が伸長するも、輸入缶のコストアップが収益圧迫

(おつまみ・珍味)

- 価格改定の影響で販売減少、原料高が重なり利益減

※参考資料P.31「食品事業の売上高内訳」を記載しております。
 ※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。



	売上高	利益
業務用冷凍食品	↓	↓
市販用冷凍食品	↑	↑
缶詰	↑	↓
おつまみ・珍味	↓	↓

➤ 物流サービス

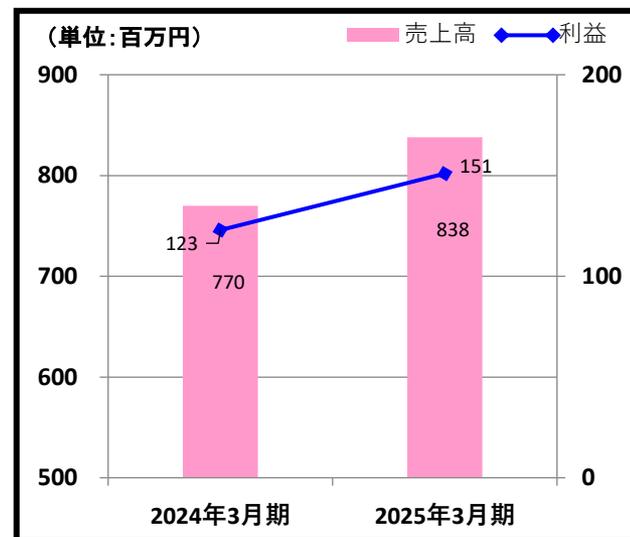
《増収増益》

(冷蔵倉庫事業)

- 庫腹率の高水準継続で保管料収入が増加

(利用運送事業)

- 外部取引先への営業強化により売上が拡大



	売上高	利益
物流サービス	➡	➡

※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。

4. 下半期の施策

セグメント別業績予想と進捗率

(単位：百万円)

	2025年3月期 2Q実績		2025年3月期 通期業績予想		売上高 進捗率	セグメント利益 進捗率
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益		
水産事業	74,501	3,144	156,000	5,800	47.8%	54.2%
生鮮事業	32,051	1,645	70,000	2,700	45.8%	60.9%
食品事業	32,906	1,413	72,000	2,900	45.7%	48.7%
物流 サービス	838	151	1,600	200	52.4%	75.5%
その他	267	△891	400	△1,600	—	—
合 計	140,565	5,464	300,000	10,000	46.9%	54.6%

< 注視すべき点 >

- ・ 中東等の地政学的リスク
- ・ 欧米の金融政策と為替の動き
- ・ 中国の長引く不動産不況による景気の低迷
- ・ 「金利のある世界」への回帰

< 事業環境認識 >

- ・ 国内企業の深刻な人手不足
- ・ 賃上げも、将来的不安から続く節約志向
- ・ コロナ禍前を上回るインバウンド需要

【水産事業】

- 相場の先行きを見越した在庫管理
- 高付加価値商品の開発、拡販
- 海外生産・販売拠点の整備

【生鮮事業】

- 独自性のある寿司種の開発・販売ルートの開拓
- 市況に応じたマグロの適正な在庫管理

【食品事業】

- 価格志向のユーザーに対応する商品の投入
- 自社工場製品の拡販による収益改善

【物流サービス】

- 冷蔵倉庫の貨物回転率向上による売上の拡大
- 貨物の集約による配送効率化

5.設備投資実績・計画

設備投資実績・通期計画

主な投資案件

	概要	2023年3月期 9月末実績	2024年3月期 9月末実績	2025年3月期 9月末実績	2025年3月期 計画
極洋	生産工場関連	1億円	2億円	5億円	18億円
	研究所関連	0億円	0億円	0億円	1億円
	養殖事業海上	1億円	1億円	1億円	1億円
	IT関連その他	1億円	2億円	1億円	7億円
	計	3億円	4億円	7億円	27億円
関係会社	生産工場関連	6億円	29億円	18億円	56億円
	まき網事業関連	7億円	0億円	1億円	2億円
	養殖事業海上	0億円	0億円	0億円	0億円
	IT関連その他	0億円	4億円	4億円	2億円
	計	14億円	30億円	22億円	60億円
	合計	17億円	34億円	29億円	87億円

- ・北米のカニかま製造会社「Ocean's Kitchen」3億円
 - ・ベトナムの食品製造会社「Kyokuyo Vina Foods」7億円
 - ・北海道のホタテ加工会社「太平洋スキャロップ」関連4億円
- その他、工場設備の改修等

- ・鳥取県の冷凍食品工場 12億円

- ・北米のカニかま製造会社「Ocean's Kitchen」16億円
 - ・ベトナムの食品製造会社「Kyokuyo Vina Foods」16億円
- その他、工場設備の改修等

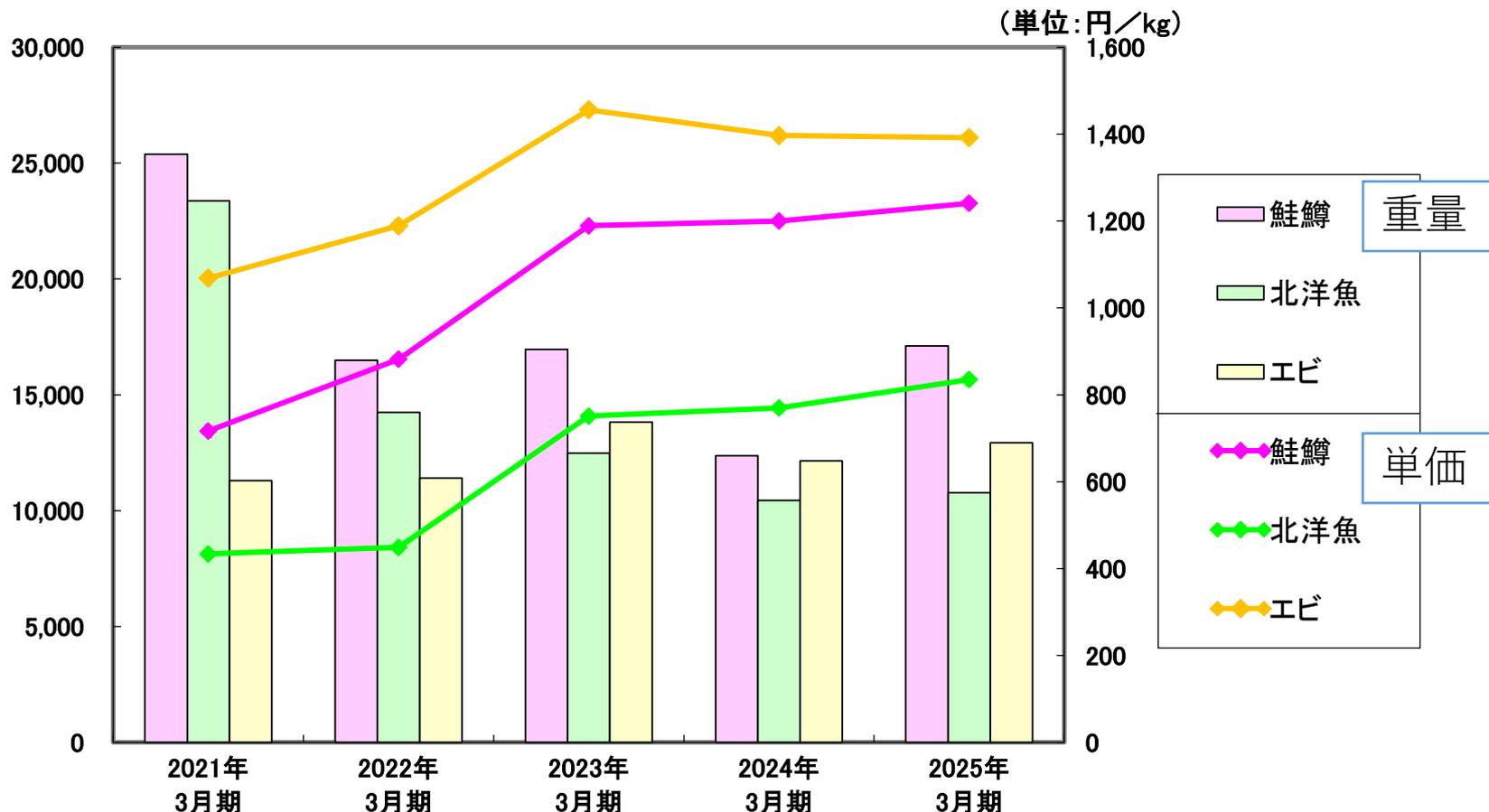
減価償却費実績

(単位：百万円)

	23年3月期2Q (実績)	24年3月期2Q (実績)	25年3月期2Q (実績)
減価償却費	993	1,173	1,216

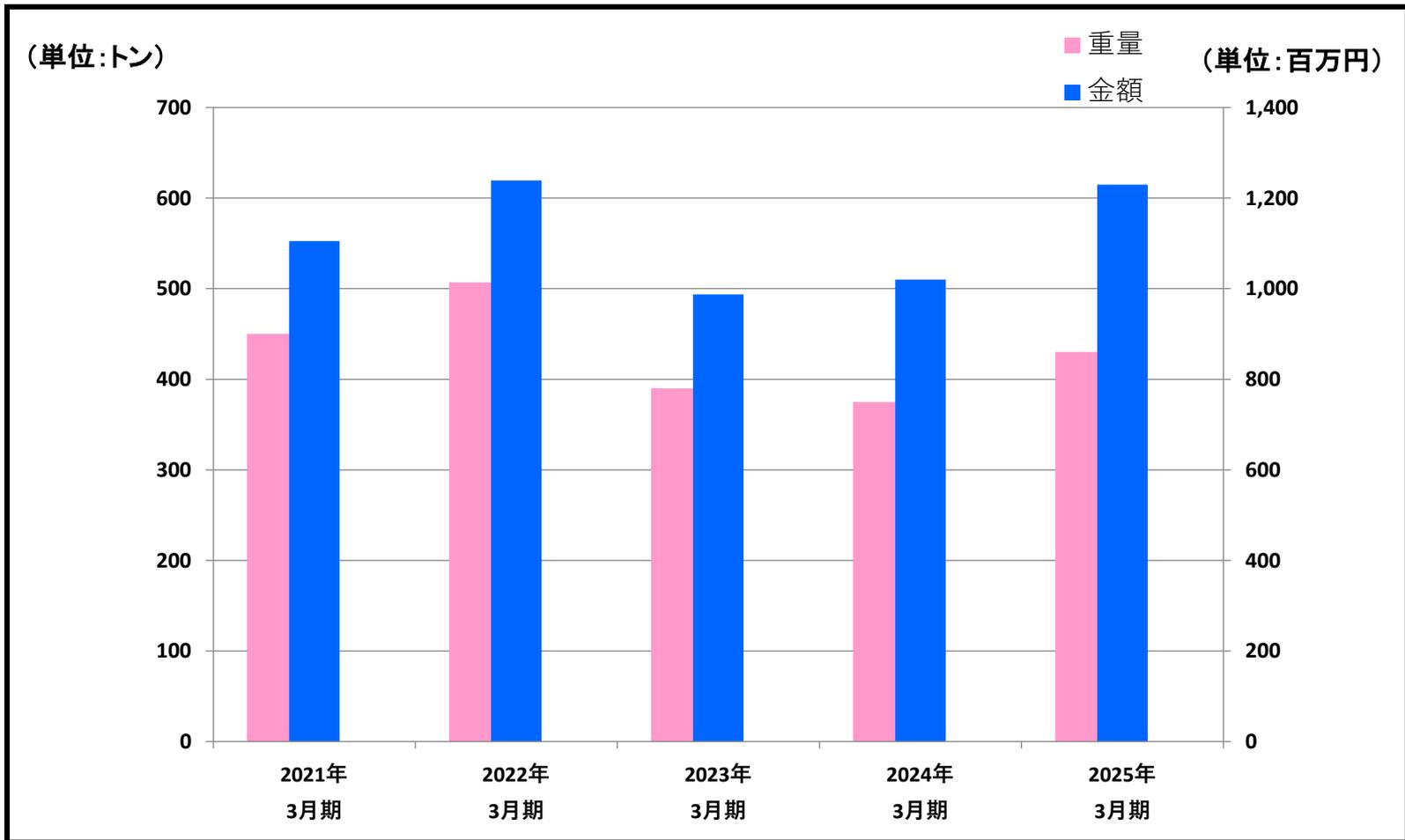
ご参考資料

水産事業セグメント（上半期）＜個別＞ 魚種別売上重量・単価推移

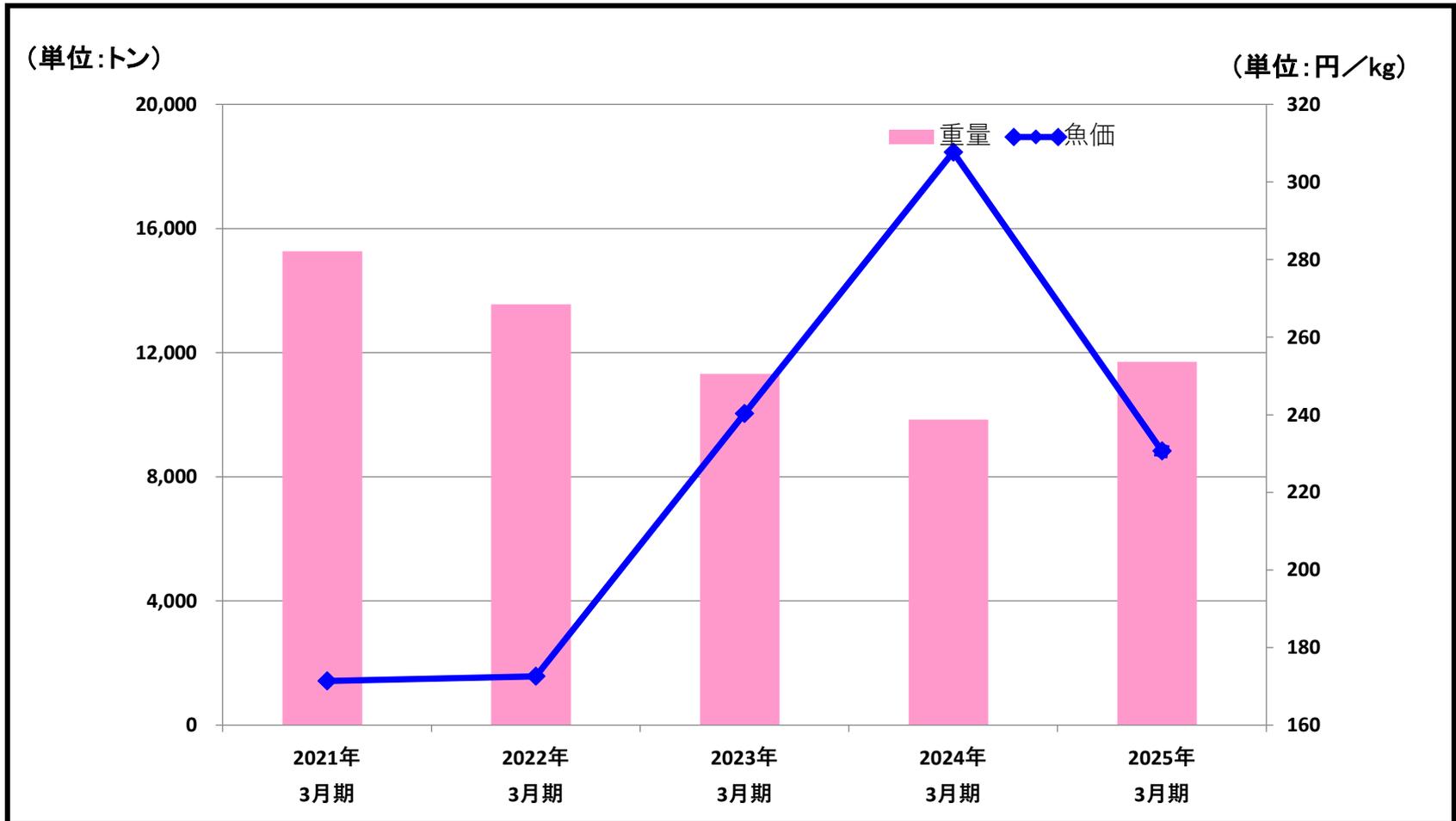


※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しています。これにより、有償支給取引については、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。2022年3月期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

生鮮事業セグメント（上半期） クロマグロ養殖事業 売上重量・金額

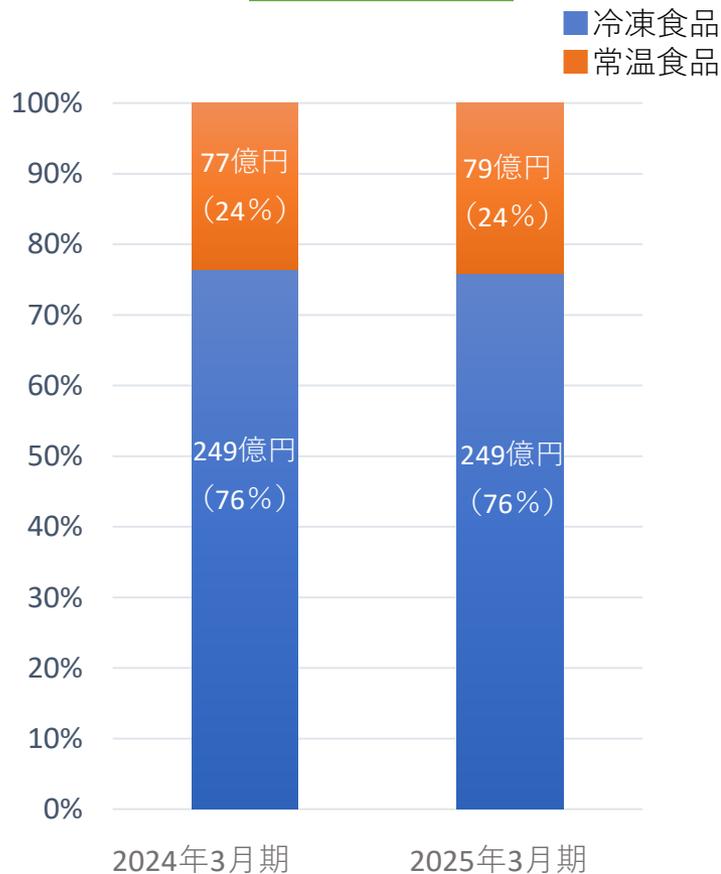


生鮮事業セグメント（上半期） 海外まき網事業 水揚げ重量・魚価

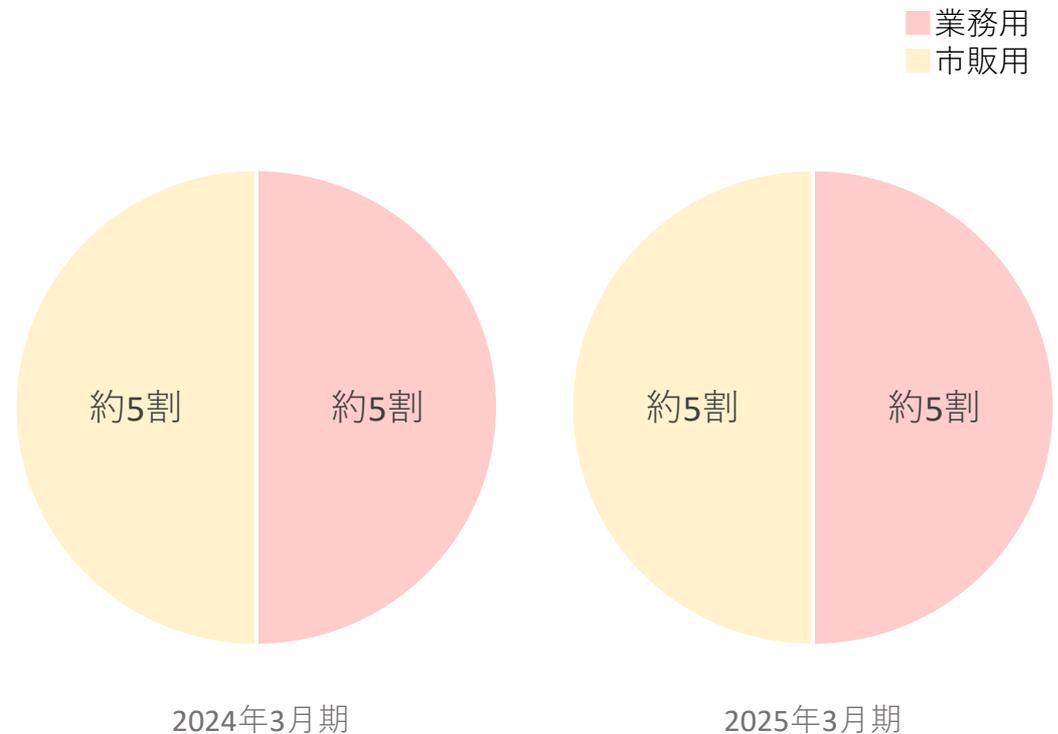


食品事業セグメント（上半期）売上高 2025年3月期（32,906百万円） 内訳 2024年3月期（32,628百万円）

温度帯別



業態別



ESGトピックス

➤ 日本カヌー連盟への協賛

「自然との共生」および「水資源の大切さ」を社会に訴える環境保全活動の一環として日本代表選手や日本カヌー連盟の活動を応援、サポート。また、競技場へ来場された方々にご参加いただき競技コース付近の清掃活動「クリーンリバー活動」を実施。2024年度参加者は270名。



➤ 水産大手3社合同海岸クリーンアップ2024【7月】

「海洋プラスチック汚染」の問題解決に向けた取り組みの加速・拡大・周知を目的に水産大手3社（(株)極洋、マルハニチロ(株)、ニッスイ(株)）合同で、千葉県の海岸沿いのごみを回収。各社の社員やその家族がボランティアとして参加。参加者数3社合計167名、回収したごみ104.6kg。



➤ キョクヨーグループ 統合報告書2024 発行【9月】

『Gear Up Kyokuyo 2027』の考え方を通して、企業価値向上のストーリーを体系的に理解いただけるよう制作。社会課題の解決に積極的に取り組む当社グループの姿を表現。



➤ 2Q 連結業績推移

単位：百万円

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
売上高	116,861	120,880	133,619	126,075	140,565
売上原価	105,036	106,951	116,774	109,937	121,736
売上総利益	11,825	13,929	16,844	16,138	18,828
販売費および 一般管理費	10,445	10,706	11,469	12,141	13,363
営業利益	1,379	3,222	5,375	3,996	5,464
経常利益	1,505	3,428	5,805	4,142	5,315
特別利益	1,465	39	302	74	20
特別損失	730	48	35	663	1,217
親会社株主に 帰属する 中間純利益	1,577	2,438	4,208	2,451	2,709

見通しに関する注意事項

本資料は、2024年9月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としております。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

したがって、実際の業績は、様々な要因によりこれらの予想と異なることがありますのでご了承ください。

当資料に対する問い合わせ窓口

株式会社 極洋 SR推進部 電話03-5545-0703

本資料は株式会社極洋が作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属します。複写及び無断転載はご遠慮ください。

水産事業

別添1:ビジネスフロー

国内販売



世界中から買付
(サケマス、エビ、サバ等)

原料

販売

販売先

- ・加工業者
- ・食品メーカー
- ・卸売り市場
- ・問屋
- ・スーパー
- ・外食企業

加工

・水産加工品
(自社工場・協力工場)

販売

販売先

- ・スーパー
- ・外食企業
- ・問屋
- ・産業給食
- ・中食ベンダー



海外事業

輸出

買付

(ホタテ、マグロ、サバ、イワシ等)



輸出

※三国間貿易含む

販売先 (海外)

- ・加工業者
- ・日系卸問屋
- ・外食企業



海外生産・販売

生産

(自社工場、協力工場)
・寿司種
・煮魚
・焼魚
・フィーレ



販売

販売地域

- ・東南アジア
- ・米国
- ・欧州 等

販売先

- ・日系卸問屋
- ・スーパー
- ・外食企業
- ・加工業者

生鮮事業

鯉鮪事業

カツオ

調達

(自社船で漁獲、買付)

原料販売

販売先

- ・卸売市場
- ・加工業者
- ・食品メーカー

マグロ

調達

(買付、自社養殖)

加工

(自社工場、協力工場)

加工品販売

- ・ブロック
- ・ロイン
- ・柵
- ・寿司種
- ・タタキ

販売先

- ・回転寿司
- ・外食企業
- ・スーパー
- ・中食ベンダー

養殖事業

マダイ、ブリ等



加工

(自社工場、協力工場)

- ・寿司種
- ・刺身商材

販売先

- ・回転寿司
- ・居酒屋／外食チェーン
- ・スーパー
- ・中食ベンダー



冷凍食品

生産

- (自社工場、協力工場)
- ・煮魚
 - ・焼魚
 - ・カニ風味かまぼこ
 - ・水産フライ
 - ・エビフリッター

販売

業務用

販売先

- ・スーパー (惣菜売場)
- ・居酒屋
- ・レストラン
- ・産業給食
- ・中食ベンダー
- ・問屋



販売

市販用

販売先

- ・スーパー
- ・コンビニ
- ・食品/食材宅配企業
- ・ドラッグストア



缶詰

委託生産

(協力工場)

販売先

- ・スーパー
- ・コンビニ
- ・ドラッグストア



ドライ水産珍味

(さきいか、あたりめ等)

生産

(自社工場)

販売先

- ・スーパー
- ・コンビニ
- ・ドラッグストア



物流サービス

トラックでの運送業務は展開していません。
キョクヨーグループの水産物・食品の保管・配送手配がメイン。

海外
水産物サプライヤー



自社工場

(水産加工品・冷凍食品)

外部顧客

(冷凍水産品／畜肉、冷凍食品)

保管

(冷蔵倉庫)

配送手配

配送先

- ・スーパー、問屋の配送拠点
- ・各セグメントの商品販売先

